「反党グループ」事件後のソ連（1）
—ウラルに追放されたカガノヴィチ(1957-1958年)—

駒村　哲　　社会科学教育講座

キーワード：「反党グループ」、カガノヴィチ、フルシチョフ、アルヒーフ

1　はじめに

「反党グループ」事件とは、スターリン死後(1953 年３月)、フルシチョフの党運営及び国内・対外政策に大きな不満を持つマレンコフ、モロトフ、カガノヴィチらが 1957 年６月、党中央委員会幹部会で反フルシチョフの多数派勢力を形成し、フルシチョフを党第１書記の地位から解任しようとした。しかしフルシチョフは、軍、KGB（国家保安委員会)、党アパラート（機関職員）などの支持を得て、党中央委員会総会を開催し、幹部会での不利な形勢を逆転してマレンコフ、モロトフ、カガノヴィチ、それにシェピーロフを「反党グループ」として非難・弾劾する総会決定を採択させ、彼らを中央委員会及び幹部会から除名したのである[1]。

この事件により党指導部から追放された指導者たちのその後の政治状況に関しては、これまでほとんど明らかにされてこなかったが[2]、本稿では新たに公開されたアルヒーフ史料[3]により、ウラルに追放されたカガノヴィチの政治状況(1957-1958 年)を一事例として検討することにより、「反党グループ」事件後のフルシチョフのソ連について若干コメントしてみたい。

2　フルシチョフソ連共産党中央委員会第１書記宛キリレンコソ連共産党スヴェルドロフスク州委員会第１書記書簡

ソ連共産党中央委員会

フルシチョフ同志へ

443 号　　1957 年７月 13 日

州党活動家集会開催及びその通知がソ連共産党中央委員会とスヴェルドロフスクの州及び市に伝達された後、ソ連共産党中央委員会６月総会総括に関する秘密の党集会が行われた。ソ連共産党中央委員会書簡の朗読後、党集会で報告したのはソ連共産党中央委員会総会参加者、州委員会書記、ソ連共産党州委員会のビューローメンバー及び各部長、党の市委員会及び地区委員会の書記とビューローメンバーである。７月 12 日現在、4538 の党機関のうち 3859 で集会が開かれた。党に登録されている 133772 人の共産主義者のうち、121730 人あるいは 91 %が出席し、残りの共産主義者は出張、休暇、病気のために集会に参加する機会がなく、個別に中央委員会の書簡を知った。演説登録者は 13436 人、討議者は 9647 人である。

党集会はレーニン主義ソ連共産党中央委員会を中心に共産主義者の大いなる積極性、その原則主義と結束のもと高度の思想・政治レベルで行われた。

企業、工事場、研究機関、教育施設、コルホーズ、MTS（機械・トラクター・ステーション）及びソフホーズの党集会で、共産主義者たちは怒ってマレンコフ、カガノヴィチ、モロトフの反党的分派活動を非難し、例外的な一致で採択された決議でソ連共産党中央委員会６月総会決定及び我が党の

国内・対外政策を承認した。

多くの党集会で共産主義者たちは共産党のメンバーからマレンコフ、カガノヴィチ、モロトフを除名することと彼らを指導的ではない職務に降格することを要求した。『この分派たちを下級で働かせ、生活をわからせろ』と共産主義者たちはその発言で語った。こうした提案は集会で声援と激しい拍手で迎えられた。

共産主義者たちはソ連共産党第 20 回大会で作成された党の政策が国内面でも国際面でも成功裏に実現し、すばらしい成果を挙げていることについて党集会で熱心に語った。工業は第六次国家５カ年計画を首尾よく遂行し、新たな経営構造に移り、農業は大いに上り調子である。現在都市と労働者団地では各種パン製品や菓子類、あらゆる種類の乳製品、ジャガイモを十分購入でき、野菜もかなりたくさん売られるようになった。集会参加者が強調したのは、国民１人あたり畜産物の生産で近いうちに米国に追いつくという党が決定した課題を実現するのは今や村コルホーズの肩に掛かっているということである。

勤労者の物質的豊かさが絶えずよくなっていることを証明する多くの事実が党集会で挙げられ、とりわけかなりたくさんの住居が建設されるようになった。こうして 1955 年にスヴェルドロフスク市では 86000 平方メートルの住居に入居させられたが、1956 年には 156000 平方メートル、今年は 230000 平方メートル建設しなければならないだろう。

非常な意気込みをもって高度の思想・政治レベルでウラルマシ工場の党集会が開かれ、2219 人が出席した。集会で報告したのはソ連共産党州委員会第１書記のキリレンコ同志、報告についての討議には 14 人が登場した。彼らは全員大いに憤慨して反党グループの行動を糾弾し、我が党の政策を熱烈に支持した。大ブロックサークルの中ぐり工リピン同志は『マレンコフ、カガノヴィチ、モロトフの離反者グループは長年にわたり国民の幸福をめざす党中央委員会の施策にブレーキをかけたり、抵抗したりした。こうした分離派が中央委員会を中傷し、党指導機関のメンバーをかえようとさえしたことに我々は深く憤る。全ソビエト国民の献身的な愛と全員一致の支持をもつ我がレーニン主義党の団結を揺さぶることは誰であろうと決してできない』と述べた。鋳型サークルの中子工オブホヴァ同志は『反党グループメンバーの卑劣な企てに対して我々の激しい怒りを表明するのはいうまでもない。マレンコフ、カガノヴィチ、モロトフ、シェピーロフは一番神聖なものである党の団結を侵そうとした。総会の行動は完全に正しく、彼らの犯罪行為にけりを付けた』と語った。

新掘削機サークルの図工ボヤルチュク同志は際立って興奮した話をし、それは再三拍手で支持された。彼曰く、『党はその歴史の全期間にわたって党の道から泥を落とした。あらゆる傾向の日和見主義者たちが党をレーニン主義路線から再三そらそうとした。そしていつも彼らは馬鹿な目にあった。我が国民とその英雄的労働者階級はつねに共産党を支持してきたし、支持している、なぜなら、党は勤労者の切実な利害を表明しているので。いとしい共産党が自分たちをどこへ導こうとしているのか国民ははっきりわかっている。マレンコフ、カガノヴィチ、モロトフは自分たちの過去の功績が党規約を無視する権利を自分たちに与えると考えて自らをかけがえのない者と自惚れた。我が党と国民は行く手に立ちはだかる者、共通利害を忘れる者全員の正体をすっかり暴露するということを彼らは忘れた。正当にもソ連共産党中央委員会総会は幹部会員と中央委員会メンバーから分離派を除き、ウラルマシ工場の従業員は熱烈に総会決定に賛成する。キリレンコ同志、我がウラルマシの感謝を中央委員会に伝えてほしい』

1917 年から党員であるナザロフ同志は『反党グループは共産主義の敵を利するような行動をとっている。彼らはフルシチョフ同志が国民の前で揺れ動いていると不当にかつ無礼にも彼を非難する。

フルシチョフ同志は大衆と直接つながり、彼らとともに政治活動を行うレーニンの伝統を続けている。反党グループの悪意ある発言はなお一層我々の警戒心を強め、党の団結を強化する』と語った。

全員一致で採択された決議で共産主義者たちはマレンコフ、カガノヴィチ、モロトフの反党グループの分派活動を一致して非難し、ソ連共産党中央委員会６月総会決定を熱烈に承認し、ウラルマシ工場の党機関は共産主義建設の課題遂行のための闘争でつねに党の忠実な支柱であったし、あるだろうことを中央委員会に請け合った。

スヴェルドロフスクの輸送機械製造工場の党集会には383人が参加し、党州委員会書記のイサエフ同志が報告した。共産主義者たちは総会決定とソ連共産党中央委員会の秘密書簡をじいっと最後まで聴いた。

集会参加者たちは反党グループの行動に汚名を着せ、ソ連共産党中央委員会６月総会決定を完全に承認した。第240サークルの旋盤工ジダーノフ同志は『私はマレンコフ、カガノヴィッチ、モロトフを国家の高位から解任し、中央委員会メンバーから除名する中央委員会決定に賛成である、彼らは党団結のレーニン主義原則を侵すことを欲し、我が工業の発展にブレーキをかけた。我が党は今後一致団結、一枚岩になると私は信じている。その指導下我々は第20回大会の歴史的決定の遂行を達成し、ついには共産主義社会を建設する』と語った。

工場委員会代表のゴルブノフ同志も反党グループの分派活動を憤慨して非難し、『マレンコフ、カガノヴィチ、モロトフの反党グループに関するソ連共産党中央委員会総会決定を全ソビエト国民は完全に承認した。今度はこちらから我が党集会決定に記録する提案をする―カガノヴィチ地区を鉄道地区に改称することを上級機関にお願いしたい』と述べた。この提案もまた第290労働サークルのサムィロフ同志の演説で支持され、その後党集会で全員一致で採択された。

全員集会は中央委員会総会決議を承認し、工場の共産主義者たちは一層緊密にその隊伍を詰め、共産主義建設の課題解決に寄与することを中央委員会に請け合った。

デフチャルスキー鉱山企業の党集会に出席したのは415人、討論登録者は22人、発言者は9人。ソ連共産党中央委員会６月総会総括に関する報告を行ったのは党州委員会書記のミシン同志。

集会は高度な思想レベルで進み、共産主義者たちには党と国家の運命に対する高邁な責任感があり、彼らは全員、分離派及び分派との不屈の闘争に対して中央委員会幹部会、中央委員会書記、個人として中央委員会第１書記フルシチョフ同志に謝意を表明した。発言者が指摘したのは、ソ連共産党第20回大会決議後、全国民は工業・農業の活動で自分たちの物的状況がかなりよくなったことを実感した。

トルベン同志― 年金生活者でかつてソ連共産党市委員会書記は、カガノヴィチ同志を否定的に性格づける事実を挙げて『私は（1937年）カガノヴィチ同志が出席したソ連共産党スヴェルドロフスク州委員会のある総会にいた。多くの人が銃殺されているという噂が流れているという質問を彼にした。『その通り、こうした悪党どもを銃殺し、銃殺するだろう』と彼は答えた。さらにトルベン同志が指摘するのは、何よりもグループを不安にさせるのは野心とその恨み、彼らは無原則に一緒に手を組み、権力欲が彼らを馴れさせた。

トラペズニコフ同志は反党グループに対する怒りを表し、分派摘発とフルシチョフ同志を長とする我がソ連共産党中央委員会が指導する巨大な組織活動に謝意を表した。

党集会はソ連共産党中央委員会総会決定を全員一致で承認し、マレンコフ、カガノヴィチ、モロトフを党から除名し、ソ連最高会議代議員から召還することを中央委員会幹部会に依頼する決定をした。それと同時に党集会は鉱山企業の従業員が10月革命40周年を祝して社会主義の責務をやりこなすことをソ連共産党中央委員会に請け合った。

高レベルでスターリン名称スヴェルドロフスク工場の党集会が行われ、それには570人の共産主義者が参加した。スヴェルドロフスク党市委員会書記コズロフ同志の報告によれば、『ソ連共産党中央委員会６月総会総括について』討議登録15人、発言9人。設計者のガガエフ同志の発言、『我が国が10月革命40周年を迎える今、我が党内に分派を持ち込もうとする人達がまだいる。中央委員会６月総会は、我が党党員団結の輝かしい意志表示である。マレンコフ、カガノヴィチ、モロトフの反党グループを摘発した中央委員会総会決議を私は支持する』

集会は全員一致で拍手の下決議を採択、その中で中央委員会総会決定を熱烈に承認した。

1957年７月６日ドヴォルツで冶金工はニジュニエ・タギリスキー冶金コンビナートの全工場党集会を開いた。集会には1800人が参加、14人が発言。ソ連共産党中央委員会６月総会総括の報告は州委員会書記キリレンコ同志が行った。

集会の発言者はフェドロフ―第１溶鉱炉サークル、マルコヴィッチ― 走行クレーン運転手、コロリョフ―1919年からの党員、ヴァシレンコ―レール圧延プラントサークル主任補佐その他は、マレンコフ、カガノヴィチ、モロトフの分派的反党的活動に激しく憤った。以前理由もなく弾圧を受けたヴァシレンコ同志の発言、『誠実な共産主義者たちが罪もないのに逮捕され、その件を処理するようソ連共産党中央委員会に頼みにいったとき、カガノヴィチは『賛同』の判を押し、モロトフは『撃ち殺せ』『撃ち殺せ』『撃ち殺せ』

集会は中央委員会総会決定を完全に承認し、ニジュニエ・タギリスキー冶金コンビナートはつねに我が党のレーニン主義中央委員会に忠実であることを請け合った。

会場での集会の終わりに、多くの叫び声が上がった、『我が党のレーニン主義中央委員会万歳、我が共産党に栄光あれ、我がソビエト国民万歳、国民は創造者、国民は勝利者』
集会はインターナショナル党歌で終わった。

ウラルの最も古いヴエルフ・イセツキー冶金工場の党集会でソ連共産党中央委員会６月総会総括と秘密書簡の報告をしたのは、スヴェルドロフスク州ソヴナルホーズ議長でソ連共産党中央委員会委員候補のステパノフ同志。

問題討議には16人が参加、炉前工ザイカ同志、平炉サークルの熟練工ガルクノフ、党委員会書記マカロフ同志その他。

ベテラン労働者シニツィン同志の発言、『このグループは自らの行動で党の団結に損失をもたらし、ソ連共産党第20回大会の決定遂行にブレーキをかけた。総会の行動は完全に正しく、党指導機関から彼らを除いた。このような処罰に彼らは完全に値する。分離派はレーニン主義中央委員会を正しい方向からそらすことは決してできない』

炉前工ザイカは反党グループの行動を非難し、ブルガーニン同志をソ連閣僚会議議長の職から解任し、モロトフ、カガノヴィチ、マレンコフを党から除名する提案を行った。

党集会はソ連共産党中央委員会６月総会決定を全員一致で承認し、スヴェルドロフスク市のモロトフ地区をヴエルフ・イセツキー地区に改称する請願を行った。

ウラルターボエンジン工場の共産主義者集会でソ連共産党中央委員会６月総会総括の報告をしたのはソ連共産党州委員会書記のキリレンコ同志。

共産主義者たちは自分たちの発言に大いに満足して、党中央委員会の結束とレーニン主義原則を指摘し、こうした信念に欠けた人達の陰謀を非難し、その活動に断固けりを付けた。

M―７組立工サークルの自らの発言でプロハレンコ同志は以下のように語った。彼は中央委員会総会決定に賛成、マレンコフ、カガノヴィチ、モロトフは実生活から遊離し、我が国にはもっと若い人

々からなる多くの賢明かつ有能な指導者がいるけれども、自分たちの聡明さを激賞したと考える。無分別な人達のみがフルシチョフは休暇中、コルホーズの仕事に興味を持ったと彼を非難することができる。

集会は中央委員会総会決定を全会一致で承認、彼らは党団結のさらなる強化のために全力を尽くすことをソ連共産党中央委員会に請け合った。

ソ連共産党中央委員会６月総会決定の全会一致の承認下、活発にコルホーズとソフホーズの党集会が行われた。

ボグダノヴィチスキー地区ベレイスキーMTSゾーンの合同党集会で、105人の共産主義者が出席、８人が発言。

ナメスニコフ同志―キーロフ名称コルホーズ農業技師の発言『マレンコフ、カガノヴィチ、モロトフの反党グループは我が党の生活と活動であまりありがたくない役割を演じた。近年党が達成した成功とりわけ農業でのそれをみんなわかっている。一方、反党グループは我々の前進にブレーキをかけ始めた、それゆえ党と国家の指導部だけでなく、一般の党でも分派が占める場所はない。共産主義者として私はソ連共産党中央委員会６月総会決定を完全に正しく、時宜にかなったものとみなす』

ティムヒン同志― 平のコルホーズ員で『共産主義への道』コルホーズの昔からの共産党員の発言『カガノヴィチ、マレンコフ、モロトフは現地には行かず、国民とは話をせず、人々が友人になったことと我々の暮らしがよくなったことがわからない―これは党の正しい政策の結果。コルホーズ員と労働者の義務的納入を中止するとは中央委員会と政府は非常によいことをした。もし反党グループが指導部奪取に成功したら、彼らは個人崇拝を再び復活しようとしただろう。彼らを非難し、党から排除しなければならなかった中央委員会の決定は正しい。我々は一層しっかりと中央委員会を中心に団結し、結束を維持しなければならない』

集会は６月総会決定を承認し、全共産主義者がソ連共産党中央委員会を中心に団結し、10月革命40周年で採択された社会主義の責務を期限前に達成するよう要請した。

タリツキー MTS ゾーンのコルホーズのコルホーズ員合同党集会でブジョンヌイ名称コルホーズの党機関書記サペーギン同志の発言『ソ連共産党中央委員会は原則上の粘り強さをもって、第 20 回党大会決定遂行のために闘い、国内生活の最重要問題はすべて全国民の討議にかける。これは国民から遊離したマレンコフ、カガノヴィチ、モロトフには気に入らない。ソ連共産党中央委員会総会はこれらの分離派を中央委員会メンバーから除くという正しい決定をした。我々コルホーズ員はコルホーズ農場による農産物の義務的国家納入中止に関するソ連共産党中央委員会とソ連閣僚会議決定に大賛成。党及び国家のメンバーの配慮にこたえて、農業協同組合は農地及び飼育場の仕事を改善し、現在100ヘクタールの農地に肉は少なくとも 40.6、牛乳は少なくとも 170 ツェントネルをあてる義務を負う』

ソ連共産党中央委員会総会の決定と書簡に大いに積極的かつ高レベルの注意をもって、高等教育施設と研究機関の党集会が行われた。

ウラル工業大学の党集会に参加したのは、405 人の共産主義者、報告を行ったのはソ連共産党中央委員会委員候補でウラルマシ工場長のグレボフスキー同志。

怒って共産主義者たちは分派・分離派について語った。

学生労働組合委員長スロボディン同志の発言、『我が党の一般方針に反対するような人々がいることを認めるのはつらい。完全に世間知らずなことだけが彼らの中央委員会に対する激烈な非難を説明できる。どんな問題も取り上げず、至る所で生活が分派の立場を覆す。彼らの試みは無益だ。いかな

る勢力も我が国民が党とそのレーニン主義中央委員会を指導する路線から我々を無理矢理そらすことはできない』

経済学講座主任セルゲーエフ同志はその話の中で、『我々は全員ソ連共産党第20回大会の決定を熱烈に受け入れた。その時から 16 ヶ月過ぎたが、とても多くのことがすでになされた。国民経済は大発展した。国際生活面では2つの社会体制間の平和共存の柔軟政策が行われている。各人は我が党の最も高邁な目的は国民の福祉ということはわかっている。モロトフ、カガノヴィッチ、マレンコフの過去の業績がいかに著しくとも、彼らは自分たちの罪を購わない。党の団結を侵害することは最も重大な犯罪である』

トロヤノフ同志― 機械製作講座助教授はその発言でソ連共産党中央委員会6月総会決定を支持し、最後に次のように語った。『例えば、農業地帯の農業向上問題の検討をフルシチョフが可能にしたその首尾一貫性が私はとても気に入っている。これは国民生活をよりよく知る可能性を与える。幹部会と書記局の全メンバーは義務として現地に出かけて国民の生活状況を知る必要がある』

ソ連科学アカデミーウラル支部の党機関での経済研究部長の討議でココソフ同志の発言、『最近私はチェリャビンスク州の村を訪れる機会があった。以前にも私は村に行ったが、率直に申し上げると今の村ではない。至る所に新しい家、飼育場、生活文化施設が建っている。これはすべて生活を調査した党の正しい政策の成果である。我々共産主義者は誰がこの政策に取り組んでいるか厳しく検討し、中央委員会総会の決定に賛成である』

集会で採択された決議で科学アカデミーウラル支部の共産主義者たちは反党グループの分派活動を非難し、ソ連共産党中央委員会が採択した措置を熱烈に支持した。

多くの党集会で次のような共産主義者の提案が表明され、決定が採択された。

1.マレンコフ、カガノヴィチ、モロトフを党から除名することについて。

2.社会主義的合法性侵害と 1937 年指導的カードル壊滅に対する反党グループ参加者の国家責任を問うことについて。

3.マレンコフ、カガノヴィチ、モロトフをソ連最高会議代議員メンバーから召還することについて。

4.反党グループ参加者の名前を付けた地区、コルホーズ、施設の改称について。

党集会で社会活動家の名前をその存命中に地区、市、居住地、企業、コルホーズ、ソフホーズ、MTS、教育施設、その他の機関に授与することを中止するフルシチョフの提案を共産主義者は熱烈に賛成した。

党集会で多くの共産主義者がブルガーニン同志がソ連閣僚会議議長のポストにとどまることの妥当性に疑問を表明した。

スヴェルドロフスク州党機関及び全勤労者の団結と結束の下で、個々の共産主義者の側からデマゴギー的な発言のケースがあったことを指摘しなければならない。

こうしてクリュチェフスキー鉄合金工場の党集会で 1927 年から党員のバランツェフ同志発言、去年治安機関をやめ、現在は中等学校の経理部長である彼の意見表明、『中央委員会の秘密書簡ではマレンコフ、カガノヴィチ、モロトフの発言の根拠は不十分であり間違いの立証が少なすぎるし、彼らの言明が引用されていない。幹部会員の大多数がマレンコフ、カガノヴィチ、モロトフを支持した、いったいなぜ彼らを責める必要があるのか？』さらに彼は、『もし過去の誤りについて話すなら、フルシチョフもまた何の物的基盤もないのに『都市計画について』提案したときに脇にそれた。なにしろこの問題に関してソ連共産党中央委員会の書簡が存在したのだから、我々は全員その書簡を読んだ』『モロトフ、カガノヴィチ、マレンコフ同志たちをもっと打ちのめさなければならないことに私は賛

成だが、1937年の抑圧に直接関係した政治局の他のメンバーも本当にもう打ちのめす必要がある。こうした事件にカガノヴィチは決して関係ないが、彼は当時交通相だったし、モロトフもそれには関係ない、ほらフルシチョフを打ちのめさなければならない、彼はマレンコフと一緒に党活動をし、1937年頃には直接関係を持っていた』

ここでの集会で発言したのはこの学校の体育指導者スタルコフ、彼は中央委員会総会の決定を支持したが、中央委員会幹部会の権威は今や失墜したと意見表明、彼はもはやそれを信じない、彼にとり中央委員会は権威なし。

憤慨して党集会はバランツェフとスタルコフの説明を要求した。しかしながら彼らの説明は支離滅裂の性格を帯びていた。党集会はバランツェフとスタルコフの発言を反党的かつ有害として弾劾する決議を採択した。

89人が出席したウラル国立大学の党集会で、共産主義者のシェルスコフ同志とクニャーゼフ同志が中央委員会６月総会決定の正当性に疑問を表明した。院生のシェルスコフの発言、『モロトフとグループの他のメンバーが社会主義の敵とは私は考えない。反党グループのメンバーが党の政策に反対して導いた論拠を私は明らかにしなければならない』物理数学部助手のクニャーゼフの発言、『私はモロトフ、カガノヴィチ、マレンコフが我々の敵だとは信じられない。もし我々がコルホーズ員からの納入を取り消したら、彼らはそもそも働かないだろうと思う。コルホーズは崩壊するだろうがコルホーズ員は生産物を市場に運んで高値で売るだろう』クニャーゼフはこうした問題を処理するため第21回党大会の召集を提案した。

出席していた共産主義者たちはクニャーゼフの発言に憤慨して、彼は演壇から去らなければならなかった。バティン、クリヴォノゴフ、コガン、ザブルーダ、ヴァシレフスキー、カルパチョフ、ゴルロフスキー、コベリョフ、ゲラシモフ、モイセーエフ、パドゥチョフ、コズメンコ、クラーギナ、シャホフ同志たちは政治的に有害かつ反党的としてシェルスコフとクニャーゼフの発言を非難した。

その決議で党集会はクニャーゼフとシェルスコフの反党的発言を断固非難し、大学の党ビューローに彼らの振る舞いを検討するよう依頼した。

シェルスコフ同志とクニャーゼフ同志の発言問題を検討した党ビューローは、彼らを政治的未熟を理由に党員から準党員に降格することを決めた。

オクチャブリ地区党ビューローは７月11日、ソ連共産党中央委員会の秘密書簡『マレンコフ、カガノヴィチ、モロトフの反党グループについて』討議の際、国立大学党集会での非党的発言を理由にクニャーゼフ同志を登録カードに記入する戒告処分にし、シェルスコフ同志は政治的未熟と度重なる非党的発言を理由に準党員に降格した。

『ヴァフルシェヴゴリ』第２露店堀トラストの党集会で、1931年からソ連共産党員で年金生活者のキリロフ同志は中央委員会６月総会決定に賛成しない、決定採択の際、中央委員会総会の可決された決定投票を棄権した。

スヴェルドロフスクの州及び市の多くの企業で、ソ連共産党中央委員会６月総会総括に費やされたミーティングが行われた。党員及び非党員のミーティング参加者は全員一致で中央委員会総会決定を支持した。マレンコフ、カガノヴィチ、モロトフの反党グループの活動を非難して、共産主義党とソビエト国家に自己の献身を表明し、10月革命40周年を祝して採択された社会主義の責務を期限前に達成する義務を負い、グループ参加者の名前を冠した地区、通り、その他の改称を要求する。

1957年７月７日、ヴエルフ・イセツキー冶金工場の勤労者ミーティングが行われ、2000人以上が参加した。

ソボリョフ同志平炉サークルの炉前工、サイデュコフ第２サークル圧延工、ドルジニン工学修士で金属物理実験法部長その他はソ連共産党中央委員会総会決定を完全に承認し、マレンコフ、カガノヴィチ、モロトフのグループ参加者に汚名を着せ、共産党を中心に一層緊密に団結するように、また分派の反撃には新たな生産成果でこたえるように工場勤労者に呼びかけた。

ミーティング参加者は以下のような決定を全員一致で採択した。

1. ソ連共産党中央委員会６月総会決定を承認し、マレンコフ、カガノヴィチ、モロトフのグループの反党活動を弾劾する。

2. 10月革命40周年を祝して採択された義務を期限前に遂行する。

3. モロトフ地区をヴエルフ・イセツキー地区に改称する件でロシアソビエト連邦社会主義共和国最高会議幹部会への陳情に勤労者代表が加わるようスヴェルドロフスク市ソビエト執行委員会に依頼する。

3000［人］以上が労働者、工学・技術労働者、輸送機械製造工場従事者のミーティングに参加した。このミーティングの登場した、非党員の電気溶接工サークル200のカランダショフ同志の発言、『マレンコフ、カガノヴィチ、モロトフ型の人々だけが我が国で行われていることがわからず、党の決定に反して中央委員会内部で闘争の道を歩み始め、我々を逆戻りさせたいが、それはうまくいかず、それを暴露するのに間に合った。マレンコフ、カガノヴィチ、モロトフの件で中央委員会決定を私は完全に支持し、彼らの行動を責め、我が党と国家への奉仕に全力を捧げる』

このような精神で発言したのはランダウ同志― 発明者でサークル 300 の名人、スボーティン―機械サークルの組立工、その他全部で14人。

ミーティングで決議採択。

1. マレンコフ、カガノヴィチ、モロトフのグループの反党活動を弾劾し、彼らを幹部会と中央委員会メンバーから除名し、占めているポストから解任する中央委員会と最高会議幹部会の決定を承認する。

2. スヴェルドロフスク市カガノヴィッチ地区を鉄道地区に改称する件でロシアソビエト連邦社会主義共和国最高会議幹部会に提案するようスヴェルドロフスク市ソビエト執行委員会に依頼する。

完全に全員一致でソ連共産党中央委員会６月総会決定を承認したのは、ウラルケーブル工場、ウラル化学機械工場、スヴェルドロフスク・パサジールスカヤ駅の蒸気機関車庫、スヴェルドロフスク・ソルティロヴォーチナヤ駅の機関車庫、スヴェルドロフスク鉄道局、クラスノゴルスキー熱併給発電所その他のミーティング。

州委員会、市・地区の委員会、党の末端組織は現在、共産主義者、コムソモール、非党員、若者の間でソ連共産党中央委員会の決定説明をなお一層真剣に行う活動を繰り広げており、工業・農業のさらなる発展の課題をなお一層首尾よく解決することに、勤労者の大きくなった創造的活力を動員した。

ソ連共産党［スヴェルドロフスク］州委員会書記キリレンコ

注

(1)「反党グループ」事件の詳細については拙稿［5］［6］［7］を参照。

(2)カガノヴィチの回想録である［4］でも、実際扱われているのは1957年６月までである。

(3)ソ連共産党中央委員会６月（1957 年）総会はスターリン後のソ連最高指導部の権力闘争における最重要の局面の１つとなり、歴史上重要な時代に国の政治発展をもたらすことになった。勝利したフルシチョフソ連共産党中央委員会第１書記は自分に反対したのは単に『反党グループ』だけではなく、事実上ソ連共産党中央委員会幹部会の正式メンバー全員であったという

事実を隠すために、打ち負かされた敵対者を最高指導部から段階的に追放することに決めた。結局党・国家の最高権力機関の全ポストを失ったのははじめのうちわずか４人の指導者であった。モロトフ、マレンコフ、カガノヴィチは、６月 29 日付ソ連共産党中央委員会総会決定により、ソ連共産党中央委員会幹部会のメンバーから除外された。同じ日に、ソ連共産党中央委員会幹部会決定（決まった尋問で）により、彼らはソ連閣僚会議の全ポストから解任された。ご覧の通り、フルシチョフは最も影響力があり経験豊かな政敵から急いで全権力を奪うために全力を尽くした。彼は自分が起用した者の裏切りを許さなかった、中央委員会総会決定により、シェピーロフは中央委員会幹部会員候補とソ連共産党中央委員会書記のポストから除外された。『反党グループ』の他の参加者たちはどうかと言えば、1957 年６月 29 日付ソ連共産党中央委員会総会決定により、ブルガーニンに警告付厳重譴責が宣告され、ペルヴーヒンはソ連共産党中央委員会幹部会員から同候補に降格され、サブーロフはソ連共産党中央委員会幹部会から除名された。

スヴェルドロフスク州党機関でソ連共産党中央委員会６月（1957 年）総会決議及びフルシチョフのいいところだけ見せるためにつくられたソ連共産党中央委員会の秘密書簡『マレンコフ、カガノヴィチ、モロトフの反党グループについて』の討議は７月に行われた。７月13日、討議経過についてキリレンコソ連共産党州委員会第１書記がフルシチョフに報告した（文書第１号)。下級党機関を含む現地に中央委員会総会決議を説明するためにソ連共産党スヴェルドロフスク州委員会ビューローメンバーの地位を有する指導者が出かけたことは、催されたキャンペーンの大きな意義について物語るものである。その当時すでにソ連共産党中央委員会幹部会員候補の地位に加わっていたキリレンコ自身、ウラルマシ工場、ニジュニエ・タギリスキー冶金コンビナート、ウラルタービン工場の党集会で報告した。文書第１号で最も興味深いのは、党機関で行われたソ連共産党の党員及び準党員の発言についての総括である、その中には採択された決議の正当性を疑うもの、あるいはそれに異議を唱えるものも含まれていた（基本的には、書簡に共産党員の『分派に対する怒りの弾劾』の話があるのは当然)。

国内ではフルシチョフにより打ち負かされた最高指導者の名前を冠した居住地区、地域、通り、企業、コルホーズ、施設や機関の名前を改めるキャンペーンが行われた。スヴェルドロフスク州で、ソ連の他の地域と同様、しかるべきミーティングや社会団体の集会を組織したのは党委員会である。スヴェルドロフスクのモロトフ地区やカガノヴィチ地区、モロトフ名称通りやカガノヴィチ名称通り、マレンコフも含め、こうした国家活動家の名前を冠したいくつものコルホーズが改称された（文書第２号)。

それと同時に、スヴェルドロフスク州は反党グループ壊滅の後遺症に直接見舞われた。かつて『クレムリンの大立者』という政治の頂点から追放されて―モロトフ、カガノヴィチ、マレンコフは低い（最近就いていた職に関して）職に送られた、マレンコフとカガノヴィチは行政・経済、モロトフは外交。スヴェルドロフスク州にやってきたのは『連邦アスベスト』トラスト支配人に任命されたカガノヴィチ、1957年７月16日ソ連共産党スヴェルドロフスク州ビューローがしかるべき決定を採択し、そのノメンクラトゥーラにこの職が入っていた。

弾劾された自分の反対者に対してスターリンのような肉体的抹殺方法をとらなかったフルシチョフも、打倒された敵対者に対する政治的迫害方法は諦めなかった。スヴェルドロフスクで基本的にこの役割を負ったのは宣伝・扇動担当のクロエドフ党州委員会書記である。彼も、また現地の党・国家指導者も、トラストメンバーに入っていた鉱山管理所長も、1958年10月のアスベスト市党代表者会議でカガノヴィチトラスト支配人に十把一絡げの批判を展開し、『欠陥のある指導方法と間違った振る舞い』で彼を非難した。カガノヴィチは自分の発言で特に苦もなく批判者の論拠を粉砕し、会場で拍手を招くことさえできた、他方クロエドフのカガノヴィチ非難の結びの演説は会場から『もうたくさんだ』との叫び声で中断された（文書第３号、第４号)。

現地指導部に支持されるフルシチョフによる人身攻撃にもかかわらず、住民は生きた『スターリンの盟友』を見るために大挙して集まり、人々は自分の災難や問題を抱えて、カガノヴィチのところに面会にやってきた。これは多くの点で、ソ連共産党中央委員会幹部会を含め再三にわたるカガノヴィチの年金入りの願いの後、とうとうそれが満たされることに役だった。1959年７月14日付ソ連共産党スヴェルドロフスク州委員会ビューローの決定でカガノヴィッチは『年金入りに関連して』トラスト支配人の職を解かれた。（［1］ c.4-5.）

参考文献

[1]《Товарищ Каганович претендует на особое к себе отношение》.Уральская ссылка опального соратника И.В. Сталина.1957-1958гг.(Г.Е. Корнилов, А.В. Сушков) Исторический архив,2005,No.4, с.4-26.

[2] Молотов, Маленков, Каганович.1957. Стенограмма июньского пленума ЦК КПСС и другие документы. М.,1998.

[3] Президиум ЦК КПСС.1954-1964.Черновые протокольные записи заседаний. Стенограммы. Постановления. Т.1.Черновые протокольные записи заседаний. Стенограммы. Гл. ред.А.А. Фурсенко.М.,2003.

[4] КагановичЛ.М. Памятные записки.М.,1996.

[5] 拙稿「『反党グループ』事件に関する一考察(1)—1957年６月ソ連共産党中央委員会総会速記録を手がかりに—」『信州大学教育学部紀要』(第86号、1995年12月、125-134頁)

[6] 拙稿「中央委員会総会(1957年６月)について」『信州大学教育学部紀要』(第88号、1996年8月、107-118頁)

[7] 拙稿「『反党グループ』事件とその後」『信州大学教育学部紀要』(第89号、1996年12月、87-98頁)

(2005年12月13日　受理)